

令和7年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1) 施設名	さいたま市馬宮コミュニティセンター外3施設
(2) 施設概要	①所在地 さいたま市西区大字西遊馬533番地1(さいたま市馬宮コミュニティセンター) さいたま市西区三橋6丁目642番地4(さいたま市西部文化センター) さいたま市北区吉野町2丁目195番地1(さいたま市宮原コミュニティセンター) さいたま市北区日進町1丁目312番地2(さいたま市日進公園コミュニティセンター) ②施設の設置目的 市民のコミュニティ活動のための施設として設置 ③施設の概要 (さいたま市馬宮コミュニティセンター) 【開館】平成14年5月7日 【構造】鉄筋コンクリート造 地上3階建 【敷地面積】5,661.47㎡ 【延床面積】5,270.93㎡ 【主要施設】多目的ホール(定員298名)、第1集会室(定員45名) (さいたま市西部文化センター) 【開館】平成2年12月1日 【構造】鉄筋コンクリート造 地下1階・地上3階建 【敷地面積】5,311.07㎡ 【延床面積】4,897.71㎡ 【主要施設】多目的ホール(定員420名)、音楽室(定員50名) (さいたま市宮原コミュニティセンター) 【開館】平成12年4月10日 【構造】鉄筋コンクリート造 地上3階建 【敷地面積】2,458.79㎡ 【延床面積】3,393.39㎡ 【主要施設】多目的ホール(定員312名)、レクリエーションルーム(定員30名) (さいたま市日進公園コミュニティセンター) 【開館】平成23年4月1日 【構造】鉄筋コンクリート造 地上2階建 【敷地面積】762.53㎡ 【延床面積】629.73㎡ 【主要施設】体育室(定員50名)、料理室(定員25名)
(3) 指定管理者	公益財団法人さいたま市文化振興事業団
(4) 指定期間、指定管理料	①指定期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日 ②指定管理料 令和5年度279,918千円、令和6年度281,023千円、令和7年度297,215千円
(5) 施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・利用者数 249,901人(前年度 263,535人) ・稼働率70.3%(前年度69.2%) ◇業務実施状況 ・生涯学習活動の支援となる文化事業の企画及び実施 ・地域交流拠点としての役割を発揮する文化事業の企画及び実施 ・コミュニティ活動等の情報提供・相談対応 ・施設の貸出し 等 ②維持管理業務の状況 ・施設、設備等の保守管理及び修繕を実施 ③その他の業務 【文化事業】 「春のファミリーコンサート」(122名)、「絆コンサート」(140名)、「ロビーコンサート」(65名)「公民館共催事業【落語会】」(78名)、「夏休み子どもキャンパス将棋体験講座」(30名)、「シニアサポートセンター協働事業」(87名)、4館連携発表会(328名)など、さまざまな講座・イベントを実施しました。また、市民活動サポートセンターとの協働による事業(1,086名)も開催し、地域団体やサークルの活動を広く市民に紹介する機会となりました。さらに、地域拠点としての機能向上を目的に「第53回大宮日進七夕まつり」(458名)も地域支援や、地域ネットワークの強化に努めた。 ※()内の数字は参加人数

(6)収支状況	収入(費目)	収入(金額)	前年度	支出(費目)	支出(金額)	前年度
	指定管理料	297,215千円	(281,023千円)	人件費	120,429千円	(112,259千円)
	文化事業収入	895千円	(789千円)	事務費	1,983千円	(1,993千円)
	その他収入	662千円	(642千円)	施設管理費	164,241千円	(164,504千円)
				事業費	2,257千円	(2,100千円)
	【自主事業】					
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	利用者アンケートや日々の窓口対応を通じて寄せられた意見・要望に対し、可能な限り迅速かつ柔軟に対応し、快適な利用環境の整備に努めた。具体的には、フリーWi-Fiのパスワードを各部屋に掲示し利便性を向上させたほか、集会室の長机については原状回復が容易となるようマーキングを実施した。また、駐車場利用区分けや周辺の植栽については車両との接触防止を目的に剪定・伐採を行い、安全確保に取り組んだ。さらに、ラウンジへのテーブル・椅子の設置や、和室利用者の利便性向上を目的とした丸イスおよび再利用素材を活用した六角形椅子の整備など、利用者の声を反映したきめ細かな環境改善を進めた。これらの取組を通じて、市民にとって親しみやすく、安心して利用できる施設運営の実現に寄与した。					
(8)その他	地域連絡協議会を年2回開催し、各委員から寄せられた要望や提言を施設管理および次年度以降の文化事業の立案に反映した。また、地域拠点として求められる「地域交流機能」「地域支援機能」「生涯学習機能」を意識し、地域の実情やニーズに即した文化事業を実施することで、地域との連携強化と事業の質向上に努めた。					

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
コミュニティ活動・生涯学習活動の支援となる自主事業の企画及び実施	地域住民の学びと交流を促進することを目的に、世代を問わず参加できる多様な自主事業を企画・実施した。文部科学大臣杯小学校・中学校将棋団体戦など、児童・生徒の思考力や協調性を育む事業を展開し、保護者や地域関係者の関心向上にもつながった。また、地域支援・協力・協働の一環として、馬宮グループとして「大宮日進七夕まつり」に参加し、地域行事への参画を通じて地域とのつながりを強化した。さらに、利用団体の活動成果を広く紹介する「コミセンまつり」を開催し、団体間の情報交換や新たな交流の場を創出した。これらの事業を通じ、地域に根ざした生涯学習の推進とコミュニティ形成の活性化に寄与した。
コミュニティ活動等の情報提供・相談対応事業	地域住民の多様なニーズに対応するため、各施設に市民相談コーナーを設置し、活動や施設利用に関する相談に加え、高齢者や子育て世代の生活相談にも幅広く対応した。また、地域団体紹介パネルの掲示、広報紙の発行、WebサイトやSNSを活用した情報発信を行い、来館者が必要な情報を得やすい環境整備を進めた。さらに、職員が地域ネットワークの一員として声をかけやすい雰囲気づくりに努めることで、地域の「身近な相談先」としての役割を着実に果たした。今後も利用者の声を踏まえ、丁寧で親身な対応を継続するとともに、地域課題に向き合う情報連携体制の充実に取り組む。
施設の貸出	多様な利用目的に柔軟に対応するため、利用者の立場に立った施設貸出を推進した。特に初めて利用する方に対しては、受付時に利用手続きや館内設備について丁寧かつ分かりやすい説明を行い、安心して利用できる環境を整えた。また、活動内容や希望に応じた部屋の提案、備品の活用方法の案内など、職員によるきめ細やかなサポートを実施し、円滑で効果的な施設利用につなげた。さらに、Wi-Fi環境について館内掲示等を通じて案内を強化し、快適な利用環境の整備にも取り組んだ。
施設維持管理	指定管理者基本協定書に基づき、施設および附属設備について計画的な点検・保守を実施し、安全性と快適性の確保に努めた。舞台設備や空調機器等の機能点検に加え、職員による日常巡回を継続することで、小さな異常の早期発見と迅速な対応につなげ、事故予防および設備の長寿命化を図った。また、利用者が安心して過ごせるよう、清掃や設備環境の見直しを随時行い、清潔で快適な空間維持に取り組んだ。さらに、屋外広告物については有資格者による定期点検を実施するとともに、今後の点検体制強化を見据え、資格保有者の育成にも取り組んだ。
市施策事業との連携	市民活動サポートセンターとの協働事業として、「コミセン・サポセン・プラザ施設利用団体交流&展示会」を開催した。交流会では、参加団体が一堂に会し、活動内容を発信できる発表形式を採用することで、団体間の相互理解とネットワーク形成を促進した。展示会においては、交流会で構築された団体間の交流基盤に一般市民を招き入れる形で展開し、地域活動への理解促進と参加機会の拡大につなげた。また、新たな取組として、市民向けのPR効果を高めるために事業名称「来て・見て・話してつながる市民活動サークル交流&展示会」を掲げたことで、参加者のみならず来場者にも事業趣旨が浸透しやすくなり、地域活動への関心向上に寄与した。
利用者満足度調査	施設利用者および講座参加者を対象に、職員対応、施設設備、講座内容等に関するアンケート調査を実施し、寄せられた意見をもとに備品配置や案内表示の改善、講座テーマの見直しなど具体的な改善を行い、利用者満足度の向上に努めた。また、多様な利用者に対応するため、グループ内全施設に翻訳アプリを搭載したタブレット端末を引き続き配置し、外国語利用者との円滑なコミュニケーション環境を整備した。さらに、アンケート結果および改善内容については受付窓口で常時閲覧できるようにし、情報公開の徹底により利用者からの信頼向上にもつなげた。

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

- ①市民誰もが安心して利用できるよう、利用登録手続きの簡素化やバリアフリー対応の強化に取り組んだ。また、外国人や高齢者にも配慮した案内表示の見直しや、職員の接客研修の実施を通じて、サービスの質向上を継続的に推進した。さらに、地域行事や講座の開催により新規利用者の獲得と利用促進を図り、施設の利用しやすさと地域への開かれた環境づくりに寄与した。
- ②経費削減に向けて、光熱水費の抑制を目的とした設備運転時間の最適化や、使用実態に応じた照明・空調の部分運転を実施し、無駄のない施設運営に努めた。また、備品の再利用や契約内容の見直しを行うとともに、地元事業者との連携によるコスト抑制にも取り組み、限られた予算の中で効率的な経費運用を図った。これらの取組により、施設運営における経費の適正化と持続可能な管理体制の確保に寄与した。
- ③施設の安全・衛生管理について、定期点検および計画的な清掃を実施するとともに、職員による日常巡回を徹底し、施設内の異常や不具合の早期発見と迅速な対応に努めた。また、業務マニュアルの見直しや内部研修を通じて、職員の対応力および管理意識の向上を図り、適正な運営体制を強化した。さらに、利用者の声を踏まえた柔軟な対応を継続することで、安全で衛生的な施設環境の維持と利用者満足度の向上に寄与した。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:市民局市民生活部コミュニティ推進課)

総合評価 (B) ※A~D

1 項目別の評価

- ①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進については、利用者アンケートを踏まえた設備改善(Wi-Fi環境の向上、備品整備、安全対策等)や、丁寧な窓口対応により、利用環境の向上に継続的に取り組んでいる。
- ②経費の削減については、人件費や事業費が増加する中、光熱水費の抑制や契約見直しなどにより効率的な運営が図られている。
- ③適正な管理運営の確保については、計画的な点検・修繕および日常巡回が適切に行われており、安全・衛生管理体制は概ね良好である。

2 総合評価

全体として安定した運営が行われており、提案内容も概ね達成されている良好な管理状況にあると評価する。事業計画に沿って適正に施設運営が行われ、市が求める水準を満たしていることから総合評価をBとした。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き、施設運営の効率化と利用者の利便性向上を図るため、予約手続や情報発信におけるデジタル化を一層推進し、適正な施設運営が図られるよう指導していく。